

2008年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

TEL: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

第1四半期は前年並み、通期営業利益目標は据え置き

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2008年3月期第1四半期連結業績と中間期・通期業績見込

単位:金額=億円 (未満切捨て)	1 Q		中間期			通期		
		前年比	(E)	当初(E)比	前年比	(E)	当初(E)比	前年比
売上高	1,134	+1	2,336	-31	+34	4,703	-13	+126
営業利益	36	+1	83	—	-0	183	—	+1
経常利益	35	+1	79	—	-1	173	—	-0
当期純利益	20	+6	45	—	-16	102	—	-6

注:(E)は今回発表した見込、当初(E)は5月15日に発表した見込

1. 売上高

- ① 第1四半期は前年並みを確保。水産が6%、低温物流が2%の増収に。一方で加工食品は5%減収、家庭用調理冷凍食品で販促費支出見直しの影響がこの第1四半期まで出るのに加え、アセロラの不振も重なった。
- ② 中間期・通期は、海外が好調な低温物流は目標を引き上げるが、加工食品の遅れから、全体の中間期・通期目標を引き下げる。

2. 営業利益

- ① 第1四半期は低温物流が海外や物流ネットワーク事業の好調で大幅に増益、不動産の増益、水産の損失圧縮もあって、加工食品の減益をカバーして全体としても前年比増益を確保した。
- ② 加工食品は調理冷凍食品の減収に加え工場操業度低下も響く。前年比で為替が円安に推移していることやアセロラの不振も減益の要因に。
- ③ 中間期・通期では、冷凍食品は第2四半期以降計画並の売上げの回復を見込むが、アセロラは第1四半期の遅れを取り戻すことは困難と判断し、営業利益見込みを下方修正、一方で、低温物流と不動産は上方修正し、全体としては当初予想を据え置く。

3. 経常利益・当期純利益

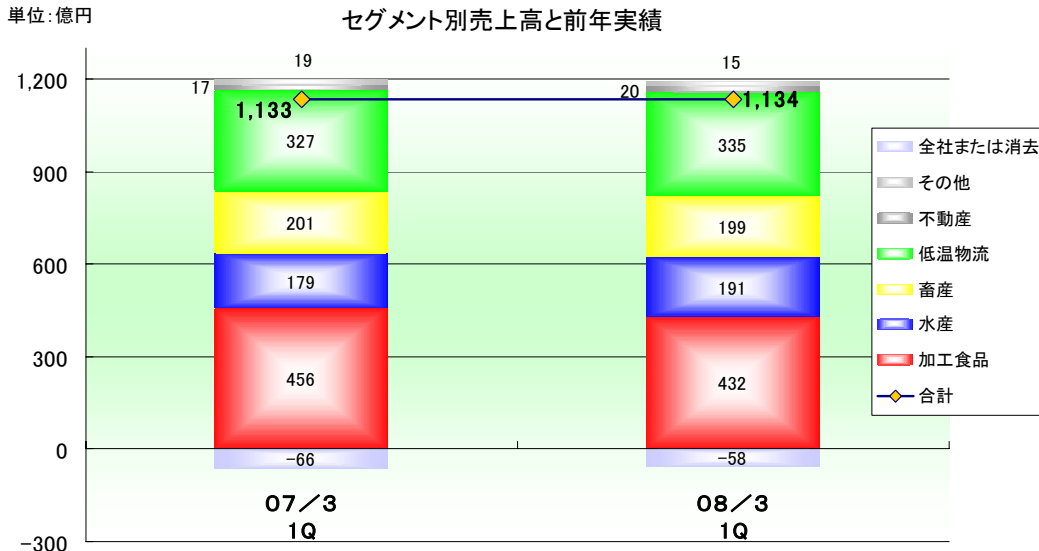
- ① 第1四半期の特別損益はてんぐ社解散に伴う固定資産売却益、事業所閉鎖損失を計上。

加工食品はアセロラの不振で通期見込を引き下げ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)

(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)



1.加工食品

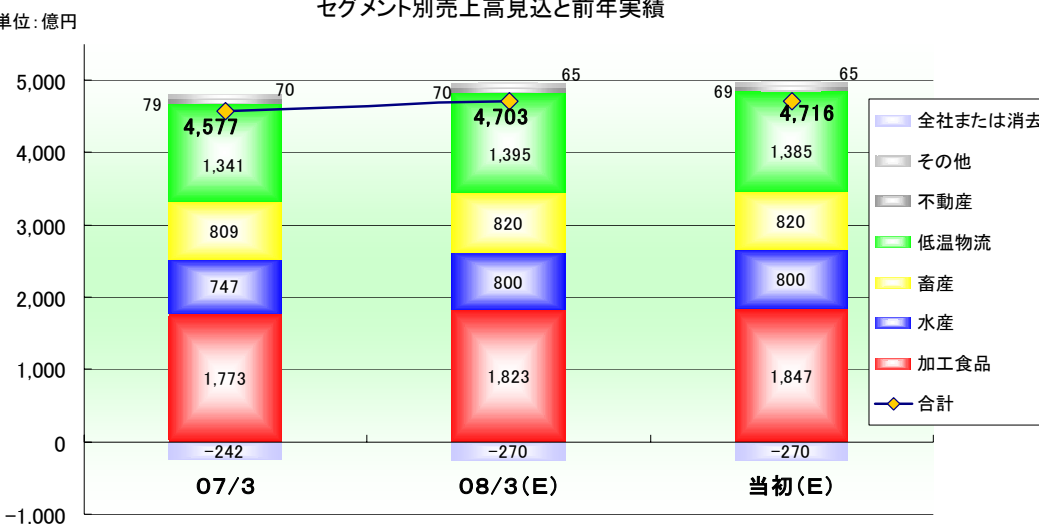
第1四半期の売上は5%の減収。家庭用で販促費支出見直しの影響が残ったのに加え、アセロラの不振が響いた。営業利益は調理冷凍食品の減収に加え、グループ自営工場の操業度低下や為替が円安に振れたことで粗利益が減少、アセロラの不振もあり56%の大幅減益。通期では、冷凍食品は第2四半期以降計画並みの売上回復を見込むが、アセロラの遅れは取り戻せず売上・営業利益目標を引き下げ。

2.水産

第1四半期は増収、営業赤字は改善。マイスターモデルの確立が進む「魚卵」や「たこ」が好調に推移した。えびは主力の東南アジアえびの市況が低迷、加工品は原料価格上昇により取扱いを抑えたため減収。通期では売上・営業利益とも当初目標を達成する見通し。

3.畜産

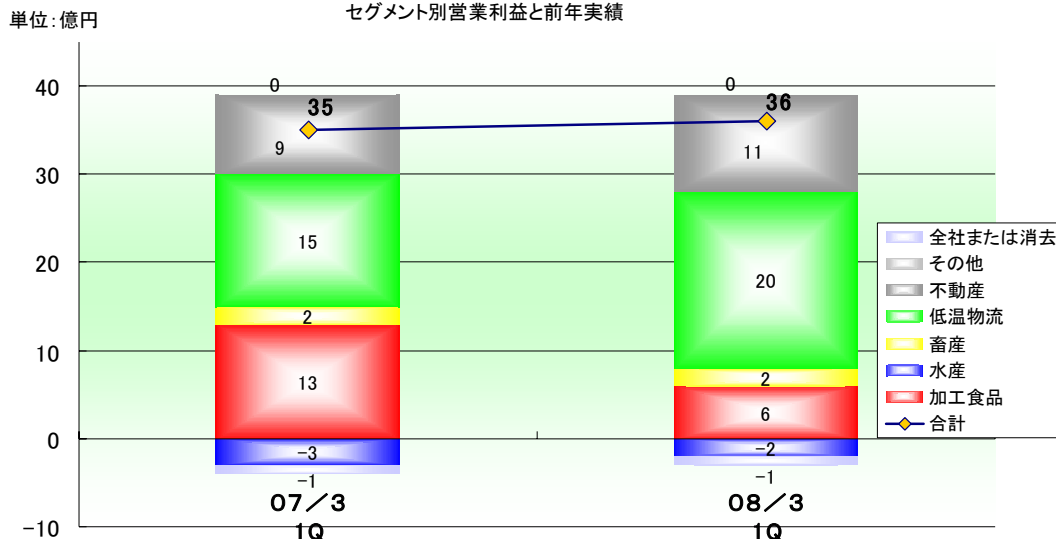
第1四半期は減収、利益は横這い。牛肉・豚肉が苦戦するが、主力の鶏肉は輸入品の市況回復で採算が改善。



低温物流は海外が好調で通期見込を上方修正

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4. 低温物流

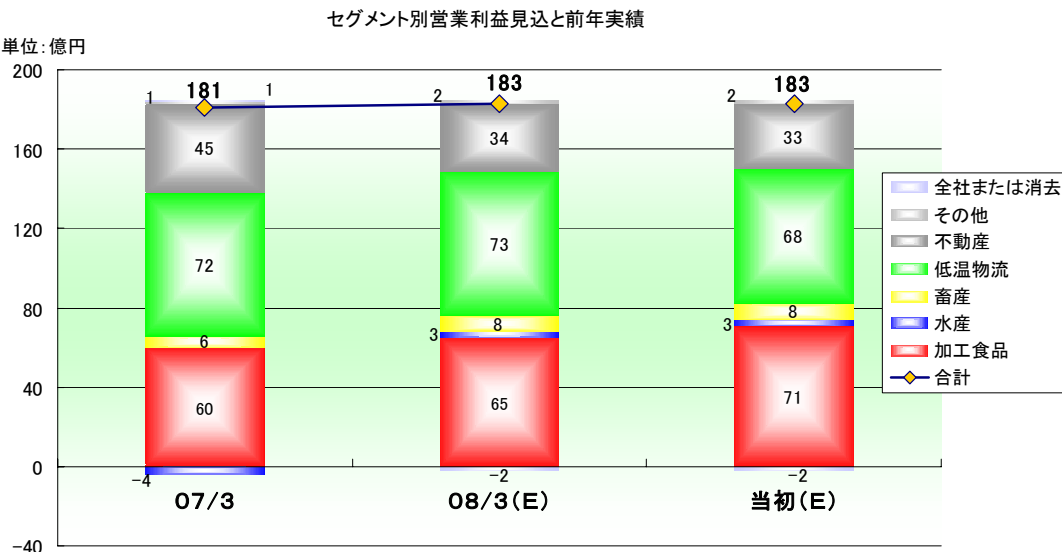
第1四半期は、全体では前年比増収・増益。物流ネットワークは07/3に稼動したセンターが増収に貢献、不採算事業所の改善が順調に進み増益。地域保管は果汁原料の回復で売上・営業利益ともに前年並みを維持。海外は運送の取扱いが順調に伸びたことと果汁保管の回復で増収・増益。

5. 不動産

第1四半期は前年比増収・増益。姫路市の土地分譲を実施した。

6. その他

バイオサイエンスは機能性素材の取扱いが減少し減収・減益、てんぐは米国産牛肉製品の輸入再開に見通しがつかず資産を売却し、会社解散を決定した。



家庭用は販促費支出見直しの影響が続く

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

第1四半期冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

前年比5%の減収。調理冷食及び農産加工品も各々5%の減収。売上伸張を牽引してきた業務用チキンの伸び率が鈍化したことに加え、主力の米飯類、コロッケ、ハンバーグなどの食肉加工品や水産調理品が減収。

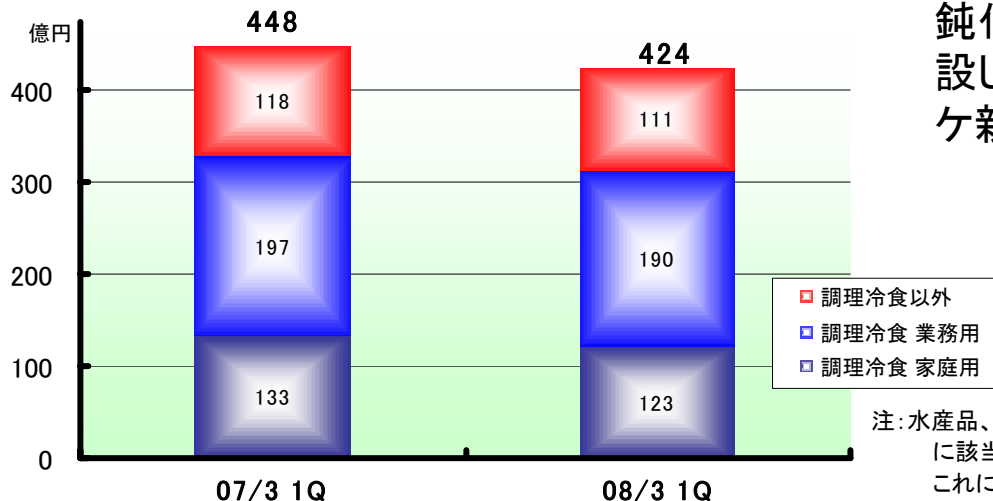
2. 調理冷食

①家庭用：前年比8%の減収。昨年実施した販促費支出見直しの影響がこの第1四半期まで出ている。重点商品を中心とした拡販に注力し、「からあげチキン」はCM投入効果で売上が伸張した。

「お弁当にGood！」シリーズは「やわらかひとくちカツ」が好調に推移したものの、シリーズ全体の売上は前年を下回った。

②業務用：前年比3%の減収。売上伸張を牽引してきたチキンが昨年夏の値上げの影響で伸び率が鈍化したことが響いた。関西工場で生産ラインを増設したハンバーグは計画どおり推移したが、コロッケ新商品の進捗が遅れが出ている。

冷凍食品売上高の推移



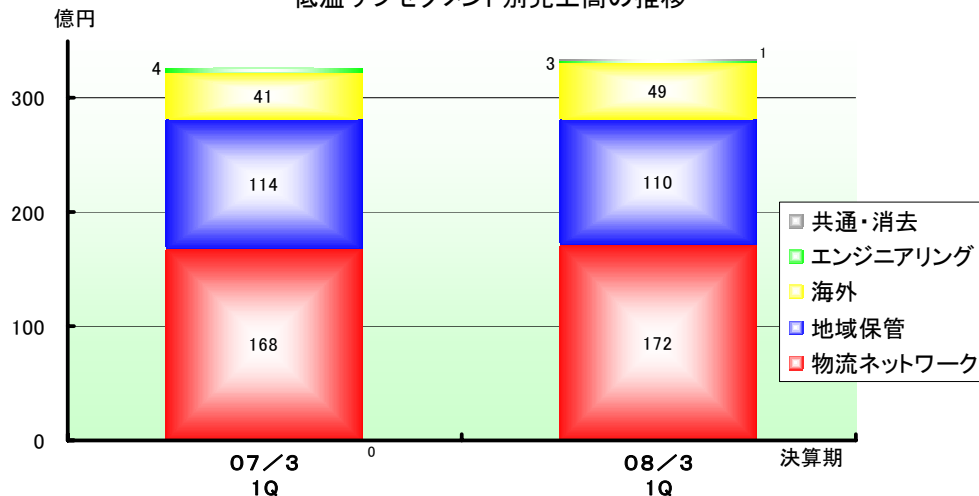
注：水産品、畜産品の商品分類変更により、「調理冷食以外」に含まれている冷凍食品に該当する水産品、畜産品の対象範囲が変更になった。
これにより07/31Qの数値を遡及修正しており、影響額はプラス7億円である。

物流ネットワークは増収増益、海外が好調に推移

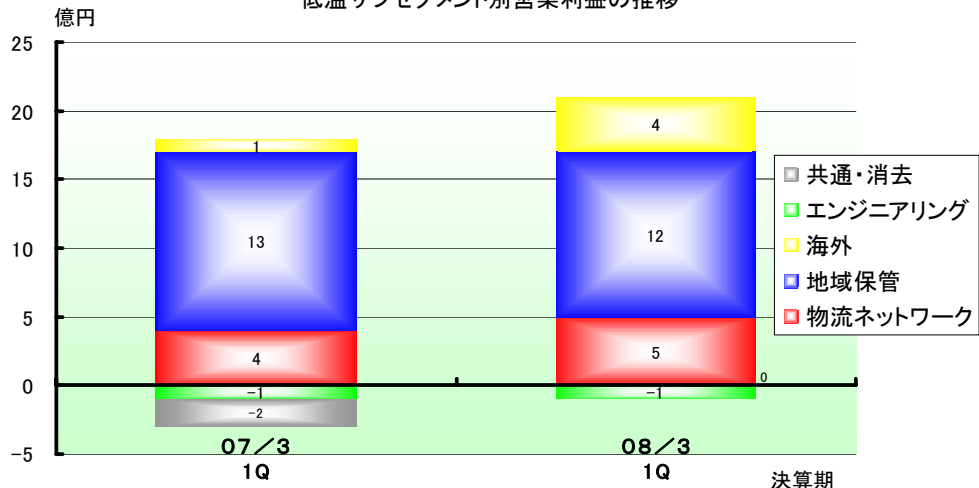
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



低温サブセグメント別営業利益の推移



1. 物流ネットワーク

- ① 全体では増収。運送収入は主力商材の取り扱いが減少したため伸び悩んだものの、07/3に稼動したセンターが引き続き増収に貢献した。
- ② 各センターにおいて生産性向上策を推進、不採算事業所の改善が大きく寄与し増益。

2. 地域保管

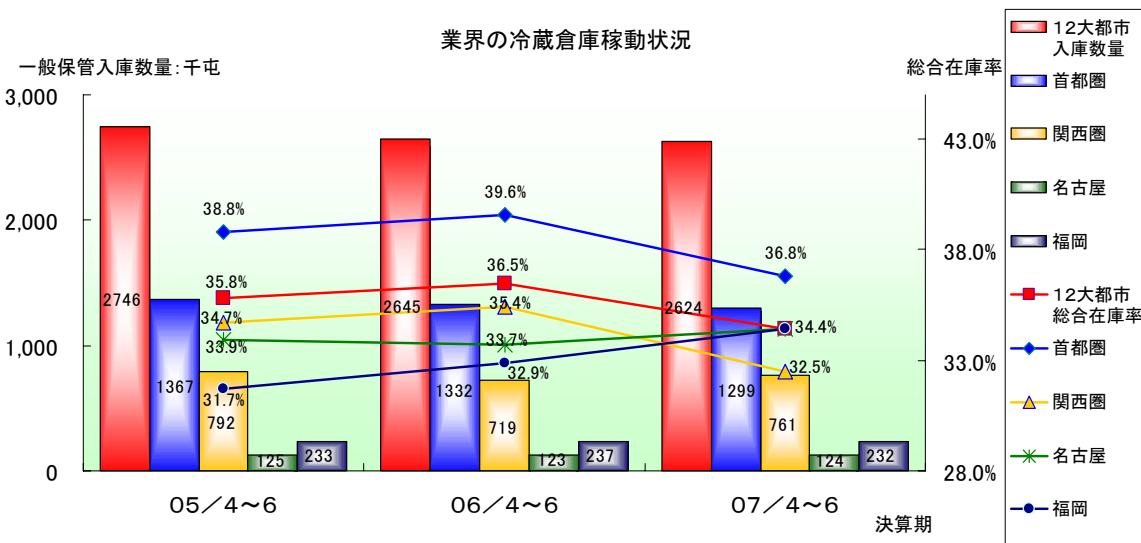
- ① 07/3に閉鎖した冷蔵倉庫が2億円の減収要因。東京港湾地区をはじめ在庫量は減少傾向だが果汁原料の搬入量確保などで影響を最低限に食い止めたため売上は前年並みとなった。
- ② 利益面ではマンパワーコストをはじめローコスト運営体制が定着し減価償却制度変更による減益要因を吸収し前年並みを確保した。

3. 海外

- ① 全体では増収・増益。欧州では運送の取扱増加が順調に進み増収、ハリケーンの影響が無くなり果汁保管が急回復したことに加え、積極的な集荷活動の成果が保管で出はじめており、増益。

業界は貨物量が減少する中で当社は在庫率を維持

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



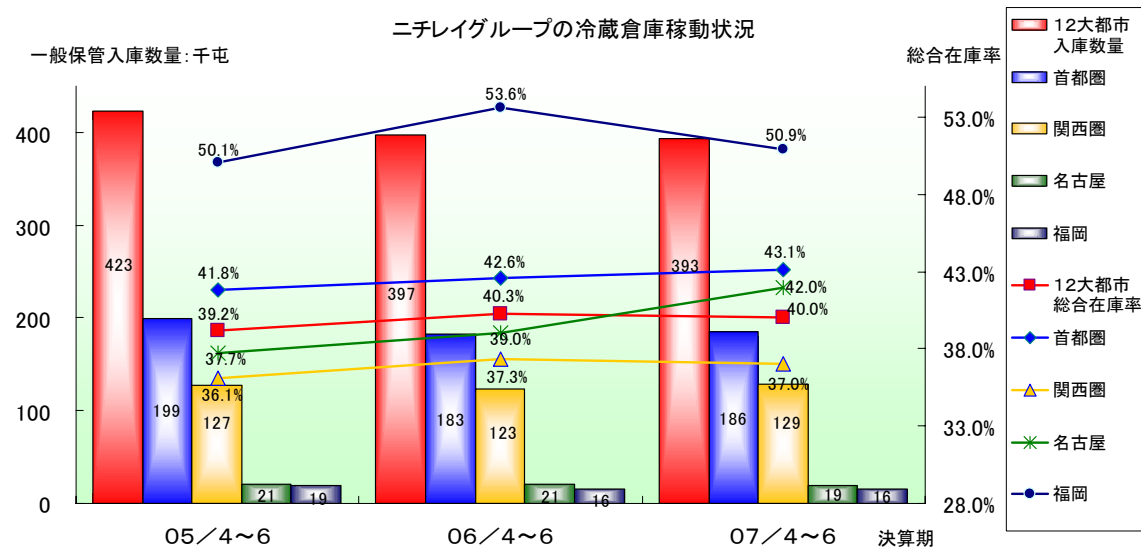
(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

1. 業界の状況

首都圏で入庫量が減少、総合在庫率は鶏肉や豚肉の在庫停滞が解消されたため前年比で全体的に低下。

2. ニチレイグループの状況

入庫量、総合在庫率ともに前年並みを維持した。



流動資産の増加は一時的なもの

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニチレイ

08／3第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位：億円（未満切り捨て）

科目	07/3	07/6	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,076	1,150	+73	①
固定資産	1,615	1,605	-9	②
資産の部合計	2,691	2,756	+64	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	862	966	+103	③
固定負債	698	650	-47	③
負債の部合計	1,560	1,616	+55	
純資産の部				
（うち自己資本）	1,130	1,139	+8	
	1,110	1,120	+9	
（有利子負債）	729	791	+61	④
科目	06/6	07/6	増減	
（設備投資額）	10	24	+13	⑤
（減価償却実施額）	22	23	+0	

【主な要因】

- ① 6月末が銀行休業日だったこともあり、売上債権が46億円増加、夏場の需要期に向け加工食品で商品在庫を積み増したこともあり、たな卸資産は21億円増加した。
- ② 有形固定資産は減価償却が進み6億円の減少。
- ③ 6月末が銀行休業日だったこともあり仕入債務が17億円増加、運転資金の一時的な増加に対応するため短期借入金が39億円、コマーシャルペーパーが40億円増加。一年以内返済の社債50億円を流動負債へ振替えたため固定負債は減少。
- ④ 運転資金の一時的な増加に対応するため短期借入金が増加した。
- ⑤ 第1四半期の設備投資の主なもの
 キョクレイ山下 建替工事
 ニチレイブラジル農産 果汁濃縮ライン新設

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前年実績

	第1四半期		第2四半期		中間期			通期		
	08/3	07/3	08/3 (E)	07/3	08/3 (E)	08/3 (当初E)	07/3	08/3 (E)	08/3 (当初E)	07/3
(売上高)										
加工食品	432	456	468	458	900	944	914	1,823	1,847	1,773
水産	191	179	212	195	403	403	374	800	800	747
畜産	199	201	205	199	404	404	400	820	820	809
低温物流	335	327	360	345	695	685	672	1,395	1,385	1,341
不動産	20	17	18	18	38	35	35	70	69	79
その他	15	19	17	16	32	32	35	65	65	70
全社または消去	-58	-66	-78	-62	-136	-136	-128	-270	-270	-242
合計	1,134	1,133	1,202	1,169	2,336	2,367	2,302	4,703	4,716	4,577
(営業利益)										
加工食品	6	13	16	18	22	30	31	65	71	60
水産	-2	-3	3	1	1	1	-2	3	3	-4
畜産	2	2	2	0	4	4	2	8	8	6
低温物流	20	15	18	20	38	33	35	73	68	72
不動産	11	9	9	9	20	17	18	34	33	45
その他	0	0	1	0	1	1	0	2	2	1
全社または消去	-1	-1	-2	0	-3	-3	-1	-2	-2	1
合計	36	35	47	48	83	83	83	183	183	181

注：当初(E)は5月15日に発表した見込数値、(E)は7月30日に発表した見込数値

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。